

「働きたい運送会社」となるために 「安全」と「健康」の両輪で取り組みを強化

（株）あかうみ（赤海章義代表取締役社長）の歴史は、昭和52年に設立された赤海運輸（株）に始まった。先代社長の時代から「安全」と「健康」への取り組みを進め、現社長が就任した平成27年以降、その取り組みに一層磨きをかけてきた。

現在同社は47期目を迎えており、大きな節目となる50期も間近に迫っている。赤海社長は、「うちで働きたいと思える会社になる」を50期に向けてのビジョンとして策定。「より魅力的な運送会社」を目指すべく、改善への取り組みを強化している。



ウイングバンボディに特徴的な同社のロゴが刻まれたトラックの前に立つ、赤海社長

■「健康経営」推進で組織を活性化 従業員の意欲を高める「昇格基準の明確化」

（株）あかうみは、赤海社長の父親である赤海守会長により、昭和52年に設立された（当時の社名は赤海運輸（株））。設立当初は農作物や飼料、肥料などの輸送を手がけていたが、昭和53年の成田国際空港開港に伴って周辺部で工業団地が拡大したこともあり、精密機械や工業製品、医薬品などの輸送にシフトしていった。また、成田市内の小・中学校への給食配送や、東京都・千葉県全域へのリネン配送、航空貨物輸送なども行っている。なお、平成4年に組織変更を行い、社名を現在の（株）あかうみに変更している。

守会長は、同社の設立当初から事故防止への意識が高く、事故防止の重要性を従業員に強く認識してもらうために、25年ほど前に「ドライバー安全運転宣言」を策定した。同宣言では、安全運転の心得を7か条にまとめているが、その筆頭に掲げたのは「睡眠時間を充分とります！」である。同社がかつて主力としていた農産物輸送では、夜中や朝早くに東京などの市場に輸送するために、ドライバーが寝不足状態で運転することも少なくなかった。守会長は、睡眠をしっかりすることで疲労回復に繋げ、健康な状態で日々乗務を行うことの大切さを訴えたのである。

さて、トラックドライバー不足が深刻化している中において、同社でも従業員の平均年齢が年々上がっており、体調に不安を抱えているドライバーもいる。赤海社長は、従業員がいつまでも元気で働き続けることのできる職場を目指すために、「従業員の健康づくり」に力を入れている。

同社では、ドライバー全員に睡眠時無呼吸症候群（SAS）の検査を受けさせているほか、「ドライバー本人だけではなく家族ぐるみで健康を意識してもらいたい」との思いから、給与明細に健康に関するチラシを同封して渡している。また、経済産業省「健康経営優良法人2023」の認定も受けた。

健康づくりを継続していくためには、従業員のモチベーションの維持がカギとなる。同社では昨年から、表彰制度に「健康優良表彰」「健

康奨励賞」を新たに導入した。「健康優良表彰」では、「身体測定」や「腹囲」「血液検査」「尿検査」「心電図」「血圧測定」「聴力検査」「視力検査」「胸部X線検査」といった健康診断の検査項目について、全項目でA（異常なし）となった従業員を表彰。また「健康奨励賞」では、前年よりも診断結果が改善された従業員を表彰する。健康に関する表彰制度の導入により、従業員の健康への意識がより高まったという。

「健康経営に取り組むことで、従業員の活力が向上し、組織も活性化することで、業績向上が期待できます。当社では、企業経営の根幹となるのは「従業員全員の健康と安全」と捉え、今後も様々な取り組みを推進していきたいと考えています。現在当社は47期目を迎えていますが、次期の経営方針では「健康と安全」をメインに掲げ、取り組みを一層強化していきます」（赤海社長）

一方で、安全指導に関連して現在同社が力を入れているのが点呼である。点呼の際には、事故防止のポイントを大きく記載したラミネート加工紙を手渡し、注意を促している。ポイントの内容は日々変えており、毎日継続的に注意を促していくことで事故防止への意識を高めている。また、月に1度開催するミーティングでも、事故防止や健康維持の重要性をドライバーに強く訴えているほか、コロナ禍前までは安全講習会を4月と10月に開催してきた。ちなみに、4月には安全講習会に併せて表彰式を行っているが、今年は先述の健康に関する表彰のほか、従来から実施していた永年勤続表彰や無事故表彰などを受賞した従業員が延べ113人にも上ったという。

日頃からの仕事への姿勢を的確に評価していくことで、従業員の仕事への意欲は飛躍的に高まる。同社では現在、「昇格基準の明確化」にも取り組んでいる。

同社に限らず、中小企業の多くは経営者と管理職に全ての業務が集中しがちになり、多忙のあまりに業務を十分に管理できなくなってい



赤海 章義
代表取締役社長



点呼の際には事故防止のポイントを記載したラミネート加工紙をドライバーに手渡し、注意を促す



同社では健康に関する表彰のほか、永年勤続表彰や無事故表彰など様々な従業員表彰を実施している



「昇格基準の明確化」に取り組み、優秀な従業員を積極的に登用する体制づくりを進める

もうことも少なくない。同社でも、ドライバーから、管理職を下支えする役割を担う主任やリーダーへの登用を進めており、この3年で主任やリーダーを務める従業員が増えてきた。これまでは創業家一族である赤海社長が評価を行ってきたこともあって、被評価者本人や周囲の従業員から不平や不満が出てくることはほとんどなかったという。しかし、管理職が評価を行う際に、明確な評価基準がなかった場合には、こうした不平や不満が大きくなってしまおうそれがある。そこで、同社では「人事評価の見える化」を図るために、評価表の策定に乗り出した。

同社では、一般社員・主任・リーダー・係長・課長・部長など、役職ごとに評価表を作成。設定された評価項目に対して、上長が5段階評価で点数を付けるとともに、評価項目に関する被評価者の良い点・改善点を記載する。点数の高い従業員がいる場合には、人事評価を行うタイミングで幹部会議において登用を提案。提案が認められれば、当該従業員の昇格が決定することになる。

「当社では毎年10月に経営計画発表会を開催し、当期の経営方針や経営目標を従業員に示しています。経営目標を達成するためには、将来の飛躍に向けて一緒に仕事に取り組むことのできる、経営的な視点をもつ人材を育てていく必要があります。最近、上長からの評価だけではなく、従業員が自己評価を行うしくみを導入しました。自己評価を通じて自身の成長の確認ができるほか、内容によっては上長へのアピールにも繋がります。優秀な従業員を見出し、積極的に登用していくことで、当社のさらなる成長に繋げていきたいと考えています」(同)

「2024年問題」まであと1年弱となる中、同社でもドライバーの労働時間削減の取り組みが進んでいる。荷待ち時間の長時間化が問題となっている航空貨物輸送においては、空港内に自社のフォークオペレーターがおり、トラックへの積込時刻が分かることから、同社のドライバーと連絡を密に取り、積込時刻に合わせてトラックを着けるようにすることで、荷待ち時間の削減に繋がっている。また、リネン配送の定期便を担当するドライバーの場合では待機時間はそれほど長くないが、スポット輸送のドライバーでは3～4時間待たされることもあるため、同社では高速道路の利用を進めるなどの取り組みを行っている。

さて、赤海社長は高等学校を卒業し、21歳の時に同社に入社。ドラ

イバーからスタートし、配車・営業担当を経て、30歳で専務取締役就任した。今から15年前となる平成20年に世界を襲った金融危機(リーマン・ショック)の際には、同社は大打撃を受け、事業存続が危ぶまれる状況に陥った。この危機的な状況乗り越えるべく、赤海社長は従業員に対して6か月間給与の10%カットを提案。8回にわたって社内説明会を行い、矢面に立って従業員への説明を重ねた。給与カットに踏み切った時には、会社の代表として従業員に対して真摯に説明を重ねてきた甲斐があって、従業員は誰も文句を言わず、また退職した従業員もいなかった。赤海社長はこの時の経験を経て、経営者としての責任を強く認識したという。

リーマン・ショック以降は、積極果敢な営業活動が功を奏して、同社は増収増益を続けてきた。そうした中で、赤海社長は平成27年に守会長から代表取締役の座を引き継いだ。

同社はまもなく50期という大きな節目を迎える。赤海社長に、50期に向けての今後の取り組みを伺うと、「働いている従業員が豊かになるような会社を目指していきたい」という。

「当社では昨年、50期に向けてのビジョンを策定し、『うちで働きたいと思える会社になる』ことを掲げました。経営者にとっては、自社の事業を永続していくことが大事です。しかし、単に事業を続けるだけではなく、働いている従業員が豊かになるような会社を目指していきたいと考えています。そのためには、ドライバーの労働環境改善を進めるとともに、ドライバーの給与を上げていく必要があります。ゆくゆくは、当社が本拠を構える成田界隈で、『トラックドライバーになるのならば、この会社の門を叩いたらいい』と言われるような会社にしていきたいと思っています。そのためには、全員で協力しながら、改善すべきところを改善していく必要があると思います。社長になって8年目を迎えましたが、いま最も大事にしているのは『決めつけないで、ちゃんと従業員の話聞く』ことです。従業員は、それぞれ違う考え方や意見を持っています。経営者としては、従業員の考え方や意見をしっかりと受け止め、様々な意見を取り入れながら、魅力ある会社にしていくための改善への取り組みを一步一步進めていきたいと考えています」(同)

ホットにゅーす

■ビジネス書や歴史書を多読 知識を蓄積して今後の経営に生かす

赤海社長の趣味の変遷をたどっていくと、幼少期はプラモデルやラジコンにはまり、社長に就任以降の40代の頃はロードバイクに熱中。房総半島を中心に行う自転車ロングライドイベント「ツール・ド・ちば」にも参加したことがあるという。

53歳になった現在は読書を趣味とし、ビジネス書や歴史書を数多く読んでいる。

「読書を通じて、これまでに知らなかった歴史上の人物の考え方をより深く理解することができます。様々な知識を蓄積し、今後の経営に活かしていきたいと思います」(同)



赤海社長は読書を通じて、様々な人物の考え方に触れるようにしている

企業プロフィール	
株式会社 あかうみ	
代表取締役社長	赤海 章義
本社	千葉県成田市下福田 285-4
従業員	147人(うちドライバー 95人)
台数	102台